

こんにちは。本日は御立寄り&御手にとっていただきありがとうございます。
 「ありすやま ぶどう」と申します、しがないSS書き同人屋でございます。

まずはご報告。「新作、冬コミにまわしました」(T_T
 6pの短編が完成していたのですが、冬コミが当選したのもう一本書いて
 初のオフセットに挑戦しようかと。どうかんがえても、2本書くのは無理なんで。
 ということで、次こそはだしますので。ご容赦の程を。
 間違っても、**らくなろく**のやりすぎで書けなかったなんて事は無いです、誓って(^-^ ;
 ああ、サークルカットの遙に「お呪い」^{おまじない}されてしまいそうだ。

で、上の報告に有るように、冬コミ出展決定です。グッズ関係の新作はおそらく無いと
 思いますが、新刊だけは出るようです。うちの絵描きさんが、超多忙なもので。
 後は再販が色々.....又の名を「在庫処分」とも言いますが(^-^ ;
 扇子とかキーブされたい方は、是非この際にお求めくださいませ。

今後のイベント参加予定

12/30 コミックマーケット 63 西 き-03b

お買い上げの「時計」「壁紙集」。確認をしておりますが動かない物がございましたら
 Web かメールにてご連絡くださいませ。交換等、対応させていただきます。

Web 方面の告知です。

もうすぐクリスマスです。そうです。皆さん忘れてるでしょうが、バイト。
 あれですね.....実はイベントが発生します。見て笑ってください、ネタですから。
 病室のほうも何か起こせるといいですねえ~
 裏山については、男性は十分気をつけてからお入りください。とっても危険です。
 では今後とも宜しくお願い致しますう~

「それじゃ孝之さん、明日」

「ああ」

買った物帰りに立ち寄った、彼の部屋の玄関先。さよならの
 挨拶に軽い口付けをし、涼宮茜はアパートを後にした。

彼、鳴海孝之はドアを閉め部屋に戻った。テーブルの上には
 四角い二つの包みと、紅い薔薇の花束が置かれている。明
 日は茜の姉、遙の誕生日。テーブルの上の物は、姉を驚かせ
 ようとする考えで、孝之と茜二人で用意したものだった。

今日二人で行った港に有る大きなショッピングモールは、デ
 ートするカップルで賑わっていた。本人たちもその中の一組
 で、プレゼントを選ぶという目的以上に、その場の空気を楽
 しんでいた。

「ねえ、見て見て。可愛いー。私これ欲しいなあ」

「今日は遙の誕生日プレゼントを買いに来たんだろ？ 自
 分のばかり見ない。まったく、しようがないな」

「えー、孝之さんの意地悪っ」

そんなやり取りがあるくらい、散々彼女に振り回されながら、
 鎌倉にある有名らしいお店のケーキ、まだ手に入れてな
 いといっていた新作の絵本、そして瑞々しく輝く紅い薔薇の花
 束を買ったのだった。なぜか、丸一日かけて。

明日は朝早く涼宮の家に行き、お祝いをする段取りだ。
 疲れているので寝ようと支度を始めた時、ふとドアをノック
 する音が聞こえた。こんな夜遅くに来る人は限られている。

「茜か？」

何か忘れ物でもして戻ってきたのだろう。そう思い彼女の
 名前を呼びながら、無造作にドアを開けた。しかしそこ
 は、思いがけない人の姿があった。